



並木中等進路だより

NO.6

DEC 8, 2014

保護者面談資料

後期生

茨城県立並木中等教育学校学習進路部

2015年度入試動向とセンター後の2次出願ポイント

大学入試センターより発表された今年度のセンター試験志願者数は昨年とほぼ同数(やや減)の**55万9156人**です。内訳では、昨年とは逆に**既卒生(浪人生)がやや減り現役生の数が増えています**。今年も**文低理高/文減理増**(文系志望者数が低く理系志望者数が高いこと)の傾向は続きますが、社会世相を反映し国際系も人気があります。ただし、ある模擬試験のデータによると国際教養大学や筑波大(国際)などでは前年度比の志望者数が減少しているという情報もありますので、大学等によっても傾向に多少違いがあるようです。

あと1ヵ月余り(1月17・18日)で6年生はセンター試験を迎えるわけですが、その後、自己採点(1月19日)、担任との面談、前後期出願校決定と10日余りのうちに目まぐるしい日々を過ごすこととなります。国公立大入試はセンター試験だけで決まるわけではありません。自分の2次得点力やこれからの伸びしろ、センター試験全体の難易度などを客観的に考えて判断する必要があります。昨年度や一昨年度のように、一部の科目で平均点が大幅にダウンしたために例年のデータの数値とは判断材料がやや違ってくる例も出てきます。センターの後こそ**しっかりと担任の先生に相談**して下さい。

文理選択・科目選択決定

4・5年次では、10月に保護者向けと生徒向けの2回、進路説明会が開かれ、4年生は来年の文理選択、5年生は科目選択についてそれぞれ説明がありました。担任や副担の先生との面談を経て、今回の保護者面談でほぼ最終決定となります。皆さん分っているように、「文理選択や科目選択」=「進路選択」でもあります。今までの「進路講演会」や「大学出前授業」、「オープンキャンパス参加」(5年)、「主要大学説明会」(4年)、「マイフューチャーセミナー」、「東大・東工大・一橋大訪問」(4年)などを通して、その都度真剣に考えてきた人は、ある程度、将来の目標が定まってきていると思います。とは言え、今あらためて自分の進路について悩み始めた人もたくさんいることでしょう。**進路選択は、自分の可能性を広げるための選択**でもあります。みんなの可能性は無限大です。くれぐれも、将来の可能性を狭めるような選択とならないように気をつけてください。「自分は数学できないから理系に行こう」といったネガティブな理由からではなく、もっとポジティブに自分の進路を考えていってください。自分の可能性を広げられるのは自分自身です。そのためにも自分で努力し、自分で調べ、ご両親や先生たちのアドバイスを参考にしてください。

進路と学習に関する意識調査結果

後期課程では、並木独自の「進路・学習に関する意識調査」を年2回、6月と11月に実施し、生徒たちの進路や学習に関する意識や学習状況を把握しています。また、分析した結果をもとに学年や担任が有効活用し、面談や生徒理解のための資料としています。今回、ぜんぶで45項目あるうちの一部をご紹介します。(数字は調査時の人数)

【進路について家族の受け止め方】 (各年次) ※中6は3クラス

	中6	中5	中4
自分の考えを尊重し十分に理解してくれている	84	96	98
自分に任されている	24	37	40
自分の考えにあまり理解を示してくれない(反対されている)	2	4	4
ほとんど話し合ったことがない	1	9	9



全体的に親が自分の進路について理解してくれていると思っている生徒は多いようです。ちょっと気になるのは、「ほとんど話し合ったことがない」と答えている生徒がいることです。親としては子どもを信頼して子どもに任せているつもりでも、それが十分子どもに伝わっていないことがあります。以心伝心もいいですが、コミュニケーションもしっかりととることが肝要です。子供は「うるさいな」と言いつつも何も言われないと不安に感じるものです(大人もいっしょかな?)。

【中4 これからの学生生活で一番したいことは】 (推移)

	4年6月	4年11月
将来の進路を見つめ、学力をつけたい	86	91
部活動で活躍し高校生活を充実させたい	15	5
多くの友人を作り楽しい高校生活を送りたい	33	38
特にやりたいことはない	17	14

【中5 これからの学生生活で一番したいことは】 (推移)

	4年6月	4年11月	5年6月	5年11月
将来の進路を見つめ、学力をつけたい	85	92	99	96
部活動で活躍し高校生活を充実させたい	18	18	18	16
多くの友人を作り楽しい高校生活を送りたい	34	25	20	20
特にやりたいことはない	13	12	9	12

「これからの学生生活で一番したいこと」を見てみると、中等4年生は、来年の文理分けもあつてか、徐々に進路への意識が高まってきているようです。5年生も4年のときに比べれば意識は高いようですが、まだこれからという人も見うけられます。意識をいかに早く持つかが、来年の受

験勉強に大きな差となって現れます。

次に、学習時間の実際を見てみましょう。前回(11月)の進路だよりでは、6年生の勉強時間の実際についてご報告しましたので、今回は4年生と5年生の勉強時間の推移を見て下さい。

【中4 家庭での学習時間】(推移)

	4年6月	4年11月
ほとんどやらない	9	9
30分程度	24	22
1時間程度	56	52
2時間程度	58	53
3時間程度	7	10
4時間程度	1	3
5時間程度	0	0
6時間以上	1	0

【中4 休業日の学習時間】(推移)

	4年6月	4年11月
ほとんどやらない	4	7
30分程度	8	13
1時間程度	23	16
2時間程度	42	41
3時間程度	43	44
4時間程度	23	20
5～6時間	9	8
7～8時間	2	1
9時間～	0	0



【中5 家庭での学習時間】(推移)

	4年6月	4年11月	5年6月	5年11月
ほとんどやらない	7	5	0	4
30分程度	18	12	10	6
1時間程度	48	53	45	39
2時間程度	63	70	67	68
3時間程度	8	12	26	26
4時間程度	1	0	1	3
5時間程度	0	0	1	1
6時間以上		0	0	0

【中5 休業日の学習時間】(推移)

	4年6月	4年11月	5年6月	5年11月
ほとんどやらない	2	4	2	3
30分程度	9	5	3	2
1時間程度	24	13	8	12
2時間程度	42	40	40	29
3時間程度	51	51	44	44
4時間程度	19	25	39	34
5～6時間	9	10	13	20
7～8時間		3	1	3
9時間～		0	0	0

前回見てもらいましたが、受験生である6年生は7割の生徒が平日5時間以上、6割が休日9時間以上です。4年生・5年生も是非先輩たちの頑張りを模範として家庭学習時間を確保して下さい。6年生の中には「もっと早くから勉強時間を確保しておけばよかった」と思っている人がたくさんいます。

実力 = 努力 × 時間

東京3大学訪問報告

【進路委員コーナー】

中等4年生では、文理選択について考える一環として、11月18日に、午前中、東京大学、午後は文系希望者が一橋大学、理系希望者が東京工業大学を訪問してきました。

東京大学では、茨城県出身の熊谷直哉先生による講義を聴き、大学生活や研究者としての心構えなどを話していただきました。今回訪問した3大学について、4年生の進路委員のうち、鈴木まどかさん、小竹優菜さん、山本栞さん、大塚武君、八重樫俊介君の5人が報告してくれました。

東京大学

東京大学ではリベラルアーツを重視しているために、入学後2年間は教養学部で広く深く学習することができます。多くの大学では入学当初から一つの専門分野に絞って知識を深めていくのに対して、東京大学では教養学部の2年間で広く知識を得ることができるため、本当に自分に向いている専門を選ぶことができます。またグローバル教育にも力を入れていて、海外で学んだり、海外の学生と交流したりなどグローバルに身を置くことができます。

東京大学では、熊谷直哉先生による講義を聴くことができました。熊谷先生は薬学部の先生なので薬学系の話が多く、興味深かったです。先生自身の体験談なども交えて話されており、これからの薬学のこと、私立大学と国立大学における薬剤師と研究者養成の重要視の差など、短い時間でしたが、中身はすごく充実していて興味深い内容でした。



理系：東京工業大

東工大では教養教育と専門教育を有機的に関連させ、知識や能力をスパイラルアップさせる「くさび型教育」を行っています。また産学官にわたる社会の要請に応えながら、国際社会をけん引できる卓越した能力を養成する大学院教育課程を実施する組織として、4つの教育院を設置しています。

東工大では4人の学生さんに話を聞きました。それぞれ個性があり色々な話をされていたので、様々な面から大学生活を想像することができました。勉強で大変なところ、サークルやアルバイトについて、学生にとって大変なことなど面白い内容が多かったので楽しく聞くことができ、大学生活のイメージなどもつかめました。



文系：一橋大学

一橋大学は元々商科大学だったので商科が充実しているそうです。商学、経済学、法学、社会学の4つの学部があるのですが、文系の大学の中では数学が最難関となっています。古い建物が多く国の登録有形文化財に指定され、建物がとても魅力的でした。また、少人数教育を重視しており、必修のゼミナール制度が受けられます。



東北大学レポート by APFTL

前回に引き続きまたまた Alumni Project for Future Top Learners (APFTL) から大学紹介が送られてきました。今回は、東北大学の白井有樹先輩の報告です。白井君は今夏には同大学の石井愛里さんとともに、東北大学ツアーを企画して現5年生と6年生数名の案内をしてくれました！ちなみに彼がいるクラスは航空工学科で唯一の男子クラスだそうです。

■はじめに

私は東北大学機械知能・航空工学科に所属しています。この学科はみなさんが持つ工学部のイメージと一番近い学科だと思います。具体的には、精密機械の開発、燃料電池の研究、人工メスなどの医療機器の開発、極限環境での探査ロボットの製作、さらには小惑星探査機はやぶさの開発など様々な研究を行うことができる学科です。3年生で研究室に配属され、帰納的に6つのコースに分かれます。興味がある人はぜひ調べてみてください。

■時間割と一日の生活

○一日の生活 一週間の生活の中で金曜日の時間割を紹介します！

1限 8:50~10:20 英語 A2

つまり英語の授業です笑。並木で受けていた授業によく似てます。

2限 10:30~12:00 線形代数学 B

大学では新しく「行列」というものを学びます。それをひたすら勉強する授業です。

昼休み 12:00~13:00 基本的に同じクラス・サークルの友達と食べます。え？もちろん男の子しかいないですよ！（悲）

3限 13:00~14:30 空きコマ ここでは友達と図書館で遊んだり？勉強したりします。

4限 14:40~16:10 情報処理演習

コンピュータのプログラムを学び作る授業です。学科の性質上これもとる必要があります。

5限 17:00~19:00 創造工学研修

大学に入学してからこの1年間で私がとった授業で1番おもしろい授業です。次に詳しく書きます。

○サークル

私は3つのサークルに所属しています。大学祭のスタッフ、バトミントンサークル、T-Semi というロボコンサークルです。特に大学祭のサークルでは、自分たちで大学祭を作っていくので大学祭が終わった時にはとてつもない達成感があります。東北大学に進学されたときはぜひ、これらのサークルの見学にきてください！

■好きな授業

○創造工学研修

自分の興味のある研究に関連している研究室の勉強を、その研究室が指導してくれるという授業です。私の場合は、ロボットに興味があるためロボット工学の研究室の授業を選択しました。MINDSTORMS という教材を用いてハードウェアとソフトウェアの両方を勉強しています。この授業の最終目標は「制限時間内にどれだけロボットがおはじきをとれるか」というものなのですが、途中で障害物があったり、使えるパーツ、センサーは限定されているので難しいですが自分一人だけでなく友達と協力して考えるのでコミュニケーション能力も付きます。

○教育と科学技術

工学部でもある程度文系科目について勉強します。この授業は東日本大震災によって引き起こされた科学の在り方とこれからの教育の在り方の二つについて考えるものです。授業の流れとしては、講義→ディベート→まとめ、という感じです。周りの生徒も文理問わず様々な学部の学生が受講しているので、総合大学である東北大学ならではの授業だと思います。

○物理学 B

1セメ（4月～8月）では物理学 A という、高校の物理の内容を大学版にただけの授業だったのですが、この物理学 B は、空気の流れやどれぐらい力を与えたら物体は伸びるかなどまさに「大学の物理」という授業になっていてとてつもなく面白いです。そのかわり、理解するのは大変ですが……。ただ、大学の先生も並木の先生と同様に質問に気さくに答えてくださるので有難いです。